



TEFL in Japan: Tradition and Innovation

生命環境学部 生命科学科 (全学共通教育・英語)
 教授 馬本 勉 (うまもと つとむ)



連絡先 県立広島大学 庄原キャンパス 2401号室
 Tel & Fax: 0824-74-1725 (研究室直通)
 E-mail: umamoto@pu-hiroshima.ac.jp
 Website: <http://www.pu-hiroshima.ac.jp/~umamoto/>

専門分野: 英語教育学 英語教育史 英学史

キーワード: TEFL (Teaching English as a Foreign Language 外国語としての英語教育), 教材論, 語彙指導, eラーニング, CALL, Moodle, 独習書, 訳読史

● 現在の研究について

伝統的な英語学習法と、現代の ICT 技術を駆使した学習法との両面から、より効果的な英語の学び方・教え方を研究しています。

独習書の分析を通じた英語学習法の変遷に関する研究

[H24~H26年度 科学研究費 基盤研究(C)]

英語圏の国から輸入され、明治初中期の日本で英語教科書として用いられた書物（主に英語読本）に対し、「直訳」や「独案内」と呼ばれる独習書が数多く出版されました。「直訳」は英文の和訳を記したいわゆる訳本です。「独案内」とは、英文中の各単語に発音カナ表記・訳語・訳順を示す番号を併記した参考書であり、単語に付された訳語を番号順に並べ変えると、和訳の文ができあがるというものです。

これまでに私は、ナショナル読本、ウェブスター綴字書、ウィルソン読本、パーレー万国史の独習書を取り上げ、それらの出版傾向や記述内容を分析してきました。「独案内」や「直訳」には様々な工夫が凝らされ、明治の日本人が外国語に向き合おうとした姿勢を見ることができます。

「独案内」「直訳」という独習書は、やがて一節毎に訳文を与え、英文中の語句に解説を施す参考書「講義」へと姿を変えていきます。こうした伝統的な訳読法の変化を見ていくことを通じ、構造の大きく異なる英語を、日本人がより効果的に学ぶ方法を探って行きたいと思っています。

Moodle を用いた「県立広島大学・英語 eラーニングモデル」の構築

[H22~23年度 重点研究(高等教育推進研究)]

ウェブ上で学習を管理するシステム Moodle(ムードル) は、練習問題やテストの作成、自動採点、学習記録の保存など、多様な機能を有しています。この eラーニングシステムを用い、英語の語彙、文法、音声、リーディングの力を高める学習支援サイトを構築しています。CALL 教室での英語授業に加え、学外からもアクセス可能な自学自習システムとして、多くの学生が利用しています。

● 今後進めていきたい研究について

英語教育の歴史は、現代の諸問題を解決するヒントに溢れています。これまでの実践、教材、研究物を集めたデータベースを作成し、歴史的な意義を検証しながら、よりよい英語教育の実現に資する研究を目指します。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

上記の研究を通じて、地域の英語教育現場の課題解決を図って行きたいと思っています。

● これまでの連携実績

英語教員研修 (小・中・高等学校の教員を対象とした授業研究会・研修会の講師, 指導助言者等)

- ・ 庄原市中学校学力向上対策事業 (H22-23)
- ・ 教員免許状更新講習 (H21, H22)
- ・ 庄原市立高小学校校内研修会 (H22) ほか
公開講座 (英学史的視点からの文化講座)
- ・ 庄原市田園文化センター文学館講座 (H24)
- ・ 安芸高田市多文化共生リレー講座 (H23-24)
- ・ 言語文化生涯学習講座 (H18~H25) ほか